

2022年6月8日

各 位

会 社 名 A N Y C O L O R 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 C E O 田 角 陸
(コード番号：5032 東証グロース)
問 合 わ せ 先 取 締 役 C F O 兼 経 営 管 理 部 長 釣 井 慎 也

TEL. 03-4335-4850

東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2022年6月8日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社の2022年4月期(2021年5月1日から2022年4月30日)における業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきまして別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項 目	2022年4月期 (予想)			2022年4月期 第3四半期累計期間 (実績)		2021年4月期 (実績)	
	対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売 上 高	13,259	100.0	73.6	10,159	100.0	7,636	100.0
営 業 利 益	3,785	28.6	160.7	3,135	30.8	1,452	19.0
経 常 利 益	3,753	28.3	158.6	3,131	30.8	1,451	19.0
当 期 (四 半 期) 純 利 益	2,497	18.8	166.4	2,059	20.2	937	12.2
1 株 当 たり 当 期 (四 半 期) 純 利 益	83 円 40 銭			68 円 79 銭		30 円 97 銭	
1 株 当 たり 配 当 金	0 円 00 銭			—		0 円 00 銭	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2021年4月期(実績)及び2022年4月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。
3. 2022年1月5日付で普通株式1株につき15株の株式分割を行っております。
上記では2021年4月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。なお、当社は基準日(2022年4月30日)を超えての新株発行となることから、2022年4月期(予想)において、発行済株式総数の増加は見込んでおりません。

【2022年4月期業績予想の前提条件】

(当社全体の見通し)

当社は「魔法のような、新体験を。」というコーポレート・ミッションを掲げており、今までにない新しいエンターテインメントの体験を世の中に提供することを目的に、サービス展開を行っております。2018年2月に開始したVTuber（注1）ビジネス「にじさんじ」は当社の主軸事業であり、モーションキャプチャー技術（注2）を利用してアバターの様相をしたライバー（注3）であるVTuberが、動画配信をはじめとした様々なサービスを展開しており、現在では「にじさんじ」は約150名のVTuberが所属するVTuberグループとなっております。また、当社は2019年より海外においてもVTuberビジネスを展開しており、現在は英語圏及び中国を中心に事業展開をしております。

当社は2018年2月の国内VTuberビジネスの開始以降、市場の追い風等も後押しして順調に成長しており、2020年4月期にはVTuberビジネスの海外進出、2022年4月期以降は、これまで急拡大をしてきたVTuberビジネスをさらに多くのファンを抱えるサービスにすべく、各種の施策を実施していくとともに、海外VTuberビジネスといった新規ビジネスから、当社の第2の主軸となるようなビジネスの構築を目指して取り組んでいく所存であります。

このような状況のもと、当社の2022年4月期の業績は、当期の期首から2022年1月末日までの実績をもとに2022年2月以降当期期末までの期間について以下の前提条件での見通しを反映して作成し、売上高13,259百万円（前期比73.6%増）、営業利益3,785百万円（前期比160.7%増）、経常利益3,753百万円（前期比158.6%増）当期純利益2,497百万円（前期比166.4%増）を見込んでおります。

(売上高)

当社の事業領域はライブストリーミング領域、コマース領域、プロモーション領域、その他領域に大別され、策定しております。

a. ライブストリーミング領域

活動するVTuber数の増加、グループ力を活かした配信コンテンツの拡充等を通じて、前期比で23%程度の成長を見込んでおります。

また、VTuberの人材育成機能の拡充、世界観・キャラクター設計機能の拡充、プロモーションの拡充を通じて、より魅力的なVTuberのプロデュースに努めることで、ファン数や視聴時間の拡大を目指してまいります。ライブストリーミング領域における収益は主にSuper Chat、メンバーシップ、アドセンス収益の3つで構成されており、Super Chatは、YouTubeのライブ配信におけるチャット機能のうち、ユーザーが有料課金を行うことで当該ユーザーのコメントが目立つように固定表示される機能、メンバーシップはユーザーが一定の月額料金を支払うことによってYouTubeチャンネルのメンバーとなり、チャンネル独自の限定動画等のメンバー限定の特典を得られる制度、アドセンス収益は、YouTube上に流れる広告による収益の一部をGoogle LLCから受領することによる収益となります。いずれの収益も、ファン数や視聴時間の拡大を基礎として増収を目指してまいります。

予算策定においては、申請期の各月実績を踏まえ、課金ユーザー数や視聴時間に平均単価を乗じて策定しております。

b. コマース領域

年度予算におけるコマース領域は、コンテンツプランナーの増強や魅力的なコンテンツの提供、イベントビジネスやその他の企画を通じたコンテンツ販売等を通じて、コマースのうちコンテンツ販売に関して、前期比で88%程度の成長を見込んでおります。また、イベントについては年度予算期間中に実施を予定しているイベントからの見込収益を通じて、前期比で22%程度の成長を見込んでおります。

また、コンテンツ販売に関しては、ライブストリーミング領域で言及したものと同様となりますが、VTuberの人材育成機能の拡充、世界観・キャラクター設計機能の拡充、プロモーションの拡充を通じて、より魅力的なVTuberのプロデュースに努めることでライブストリーミング領域と相乗的に成長し、コンテンツ購入者の増加を通じた売上高の成長を目指してまいります。また、イベントはコロナウィルスの状況が一定程度改善し、会場キャパシティの制限等も解消されていくことを想定しております。さらに、当社VTuberのファンの拡大により、イベント規模も拡大していくことを目指してまいります。

予算策定においては、コンテンツ施策やイベント開催計画毎の積上げで策定しております。

c. プロモーション領域

プロモーション領域は、現状、大半がクライアント側からのインバウンド案件となっておりますが需要の増加で売上高は堅調に推移しており、リピート案件の獲得の更なる積み上げ、社内セールスやプランナーの増員による積極的な案件獲得に向けた営業活動、大手企業等を中心とした大型の企業案件の獲得を通じて、前期比で134%程度の成長を見込んでおります。

また、ファンの拡大を通じて BtoC 領域であるライブストリーミング、コマースの成長を目指すとともに、そうした BtoC 領域でのファン拡大は BtoB 領域であるプロモーション領域においても、当社所属 VTuber の魅力向上に資するものと考えており、VTuber 毎の企業案件の増加を通じて収益の増収を目指してまいります。

予算策定においては、申請期の案件獲得実績や担当部署の目標達成状況を踏まえて策定しております。

d. その他領域（海外 VTuber ビジネス）

当社の領域のうち、海外 VTuber ビジネスは新規ビジネス領域に属するものとなっております。海外 VTuber ビジネスは、引き続き事業の立ち上げ期であり、各地域における認知拡大施策、興味関心の誘引施策、継続市長施策等を通じた拡大を目指してまいります。

予算策定においては、申請期の各月の計上実績を踏まえて策定しております。

以上を踏まえ、2022 年 4 月期の売上高を 13,259 百万円（前期比 73.6%増）と見込んでおります。

（売上原価）

売上原価はライブストリーミング、コマース（コンテンツ・イベント毎）、プロモーション、その他（海外 VTuber ビジネス）それぞれの区分で計上しており、主な内容としては VTuber 等への支払報酬、配信やコンテンツ販売に伴うプラットフォーム手数料、グッズ製造原価、イベント原価等で構成されております。

以上を踏まえ、2022 年 4 月期の売上原価を 7,678 百万円（前期比 63.3%増）と見込んでおります。

（販売費及び一般管理費、営業利益）

販売費および一般管理費の主な内訳は主に人件費、採用費、旅費交通費、備品消耗品費、ソフトウェア費用等の人員数を基礎として発生するもの、オフィス等の地代家賃、外注費、広告宣伝費等であり、その他経費も含め積み上げで算出しております。

人件費については前期比 18.4%増を想定しており、人員計画を基に算出しております。

地代家賃については計画期間中のオフィス移転等の予定はないことから、据え置きの水準としている一方で、それ以外の費用については計画期間を通じて一定の増加を見込んでおります。

以上を踏まえ 2022 年 4 月期の営業利益を 3,785 百万円（前期比 160.7%増）と見込んでおります。

（営業外損益、経常利益）

営業外費用について、主に支払利息と上場関連費用を見込んでおります。

以上を踏まえ、経常利益は 3,753 百万円（前期比 158.6%増）を見込んでおります。

（特別損益、当期純利益）

特別損失は、新型コロナウイルスを起因とした「イベント中止損失」の発生を見込んでおります。

以上の結果、2022 年 4 月期の当期純利益は 2,497 百万円（前期比 166.4%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因によって異なる場合があります。

- （注）
1. VTuber とは、Virtual YouTuber の略称であり、YouTube（Google LLC が運営する動画配信プラットフォーム）上で独自に制作した動画を継続して公開している人物のうち、2D または 3D のアバターを利用して活動するものの名称であります。
 2. モーションキャプチャーとは、現実の人物や物体の動きをデジタル的に記録する技術であります。
 3. ライバーとは、動画配信活動をする配信者の名称であります。

以上



2022年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年6月8日

上場会社名 ANYCOLOR株式会社 上場取引所 東
コード番号 5032 URL <http://www.anycolor.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 田角 陸
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO兼 経営管理部長 (氏名) 釣井 慎也 TEL 03-4335-4850
四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年4月期第3四半期の業績(2021年5月1日~2022年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年4月期第3四半期	10,159	-	3,135	-	3,131	-	2,059	-
2021年4月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年4月期第3四半期	68.79	-
2021年4月期第3四半期	-	-

- (注) 1. 当社は2021年4月期第3四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2021年4月期第3四半期の数値及び2022年4月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。
2. 当社は、2021年12月1日開催の取締役会決議により、2022年1月5日付で株式1株につき15株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。
3. 2022年4月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年4月期第3四半期	8,351	5,585	66.84
2021年4月期	6,196	3,490	56.26

(参考) 自己資本 2022年4月期第3四半期 5,581百万円 2021年4月期 3,522百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年4月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2022年4月期	-	0.00	-	-	-
2022年4月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年4月期の業績予想（2021年5月1日～2022年4月30日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	13,259	73.6	3,785	160.7	3,753	158.6	2,497	166.4	円 銭 83.40

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年4月期3Q	29,943,435株	2021年4月期	30,543,435株
② 期末自己株式数	2022年4月期3Q	－株	2021年4月期	600,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年4月期3Q	29,943,435株	2021年4月期3Q	30,266,605株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

—

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第3四半期累計期間	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(会計方針の変更)	5
(重要な後発事象)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は「魔法のような、新体験を」というコーポレート・ミッションのもと、新しいエンターテインメントを提供する会社として、VTuberグループ「にじさんじ」の運営を主軸としたエンターテインメント領域での事業展開を行っております。

当第3四半期累計期間における我が国経済は、前期に引き続き新型コロナウイルス感染症の世界規模での流行が続く中、国内外で社会・経済活動に対する一定の制限が継続しており、今後の先行きも不透明な状況となっておりますが、当社では現在の経済環境に適応した事業運営を着実に進めております。

国内VTuberビジネスでは、ライブストリーミング領域において、前期に引き続き所属VTuber数の増加よりも、VTuberサポート体制の拡充を優先し、2021年8月に「にじさんじ甲子園」を、年末年始に「NJU歌謡祭」を開催しており、視聴者の皆様からはご好評をいただいております。VTuberグループ「にじさんじ」の所属VTuber数は107人（前年同期比2.88%増）、YouTube再生時間は4億2,939万時間（前年同期比17.8%増加）となりました。加えて、コンテンツ販売の領域においては、2021年2月27日から28日にかけて開催しました「にじさんじ Anniversary Festival 2021」のライブBlu-rayを10月に、またライバーの衣装・装飾品の一部をそのままのデザインでグッズ化することをコンセプトとした「そのまんまグッズ」を順次発売しており、これらの販売が好調となっております。イベントについても、7月31日から8月1日にかけて完全オンライン開催となる「にじさんじ AR STAGE“LIGHT UP TONES”」、10月30日及び31日には横浜びあアリーナにおいて「NIJIROCK NEXT BEAT」及び「initial step in NIJISANJI」、加えて11月20日にはZepp Hanedaにて「Kuzuha Birthday Event 『Scarlet Invitation』」を開催しております。また、海外VTuberビジネスに関しても、英語圏におけるVTuberビジネスの拡大をはじめとして注力してまいりました。以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高10,159,499千円、営業利益3,135,946千円、経常利益3,131,750千円、四半期純利益2,059,760千円となりました。

なお、当社は動画コンテンツ関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は7,543,322千円となり、前事業年度末に比べ2,322,506千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が1,844,274千円、商品が294,808千円及び売掛金が161,821千円増加したことによるものであります。固定資産は808,286千円となり、前事業年度末に比べ200,657千円減少いたしました。これは主に、投資その他の資産の敷金が94,391千円及びその他が63,344千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、8,351,608千円となり、前事業年度末に比べ2,121,848千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は2,405,041千円となり、前事業年度末に比べ271,060千円増加いたしました。これは主に買掛金が379,279千円及び未払法人税等が212,944千円増加した一方で、短期借入金200,000千円減少したことによるものであります。固定負債は361,128千円となり、前事業年度末に比べ208,973千円減少いたしました。これは長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,766,169千円となり、前事業年度末に比べ62,087千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は5,585,439千円となり、前事業年度末に比べ2,059,760千円増加いたしました。これは四半期純利益2,059,760千円によるものであります。なお、自己株式の消却により、資本剰余金が70,000千円、利益剰余金が55,640千円及び自己株式が125,640千円減少しております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、日本国内におけるVTuberグループ「にじさんじ」の安定的かつ継続的な成長を軸に、さらなる企業価値の向上に向けて、海外VTuber事業を積極的に推進していく方針です。国内VTuber事業において、主にコンテンツ販売や企業向けのプロモーションの業績動向が期初想定を上回る進捗で推移していることから、期初の予想から上方修正いたしました。

上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年4月30日)	当第3四半期会計期間 (2022年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,628,274	5,472,549
売掛金	1,395,309	1,557,131
商品	127,033	421,842
その他	70,198	91,799
流動資産合計	5,220,816	7,543,322
固定資産		
有形固定資産	248,852	207,876
無形固定資産	9,315	7,369
投資その他の資産		
敷金	565,623	471,231
その他	185,152	121,808
投資その他の資産合計	750,776	593,040
固定資産合計	1,008,944	808,286
資産合計	6,229,760	8,351,608
負債の部		
流動負債		
買掛金	622,188	1,001,467
短期借入金	200,000	—
1年内返済予定の長期借入金	242,510	255,481
未払法人税等	462,118	675,063
その他	607,163	473,028
流動負債合計	2,133,980	2,405,041
固定負債		
長期借入金	570,101	361,128
固定負債合計	570,101	361,128
負債合計	2,704,081	2,766,169
純資産の部		
株主資本		
資本金	104,120	104,120
資本剰余金	2,546,034	2,476,034
利益剰余金	997,534	3,001,654
自己株式	△125,640	—
株主資本合計	3,522,048	5,581,809
新株予約権	3,630	3,630
純資産合計	3,525,678	5,585,439
負債純資産合計	6,229,760	8,351,608

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期累計期間 (自2021年5月1日 至2022年1月31日)
売上高	10,159,499
売上原価	5,794,644
売上総利益	4,364,855
販売費及び一般管理費	1,228,908
営業利益	3,135,946
営業外収益	
受取利息	17
為替差益	1,443
補助金収入	1,140
その他	265
営業外収益合計	2,866
営業外費用	
支払利息	4,271
株式公開費用	2,790
営業外費用合計	7,062
経常利益	3,131,750
特別損失	
イベント中止損失	161,205
特別損失合計	161,205
税引前四半期純利益	2,970,545
法人税、住民税及び事業税	873,199
法人税等調整額	37,585
法人税等合計	910,784
四半期純利益	2,059,760

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2021年5月20日開催の取締役会決議に基づき、2021年5月20日付で、自己株式40,000株の消却を実施しております。その結果、負の値となるその他資本剰余金をその他利益剰余金から減額しています。

これらの結果、当第3四半期累計期間において資本剰余金が70,000千円、利益剰余金が55,640千円、自己株式が125,640千円減少し、当第3四半期会計期間末において、資本剰余金が2,476,034千円、利益剰余金が3,001,654千円となっております。なお、保有していた自己株式を全て消却したこととなります。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

なお、収益認識適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、当第3四半期会計期間への影響はありません。

（重要な後発事象）

単元株制度の採用

当社は、2022年2月10日開催の臨時株主総会決議に基づき、同日付で定款の一部を変更し、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。